



飛行機発明者。宇和郡矢野町(現、八幡浜市)出身。小学校を卒業した年に父親が死去したため、様々な仕事をしながら勉学に励み、明治20(1887)年、丸亀歩兵第12連隊に看護卒として入隊した。明治22(1889)年、山岳演習中に香川県仲多度郡十郷村樅ノ木峠(現、まんのう町)で、カラスが群れ飛ぶのを見て、飛行原理を発見し、アメリカのライト兄弟の有人動力飛行の成功より12年前に、ゴム動力のカラス型の自作模型飛行器を完成させ、飛行実験に成功した。その後、玉虫型飛行器の発明に成功し、わが国における飛行機開発の先駆者となった。また、製薬業界でも名を成し、晩年は京都府綴喜郡八幡町(現、京都府八幡市)に飛行神社を建て、航空犠牲者の鎮魂を図った。

略歴

慶応2(1866)年6月9日	宇和郡矢野町に、父・幸蔵と母・きたの四男として生まれる。
明治20(1887)年5月12日	丸亀歩兵第12連隊に看護卒として入隊
明治22(1889)年11月22日	演習の帰りに樅ノ木峠でカラスの飛ぶのを見て飛行原理を発見し、飛行機発明のヒントを得る。
明治24(1891)年4月29日	丸亀練兵場でゴム動力による鳥型模型飛行器の飛行実験に成功
明治26(1893)年10月5日	人を乗せて飛ぶ玉虫型飛行器の模型を完成(飛行実験はせず)
明治27(1894)年8月19日	日清戦争従軍中、玉虫型飛行器の設計図を伴って、大島義昌旅団長に軍用での製作を上申し、次いで翌日、長岡外史大佐に上申するが、却下される。
明治31(1898)年	退役。大阪に出て、大日本製薬に入社
明治33(1900)年	京都府の八幡町に移り住み、飛行機製作に本格的に取り組み始める。
明治41(1908)年	大阪製薬を設立し、社長として製薬界に貢献
大正4(1915)年3月10日	邸内に、飛行神社を創建。
大正8(1919)年11月	陸軍士官学校長・白川義則に、かつて上申した設計図が合理的であると認められる。
大正14(1925)年9月	飛行機発明の功績により、通信大臣より表彰される。
大正15(1926)年5月	帝国飛行協会から表彰される。
昭和11(1936)年4月8日	胃がんのため71歳で永眠

(写真提供：飛行神社)

〈関連図書〉

- ・豊沢豊雄『竹トンボ風と飛行機』 偕成社 1977年
- ・八幡浜市誌編纂会『八幡浜市誌』 八幡浜市 1987年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・野口常夫『飛ぶ一人はなぜ空にあこがれるのか』 講談社 1991年
- ・平木國夫『伊予から翔んだイカロスたち』 酣燈社 1991年
- ・菅原千夏『玉虫とんだ』 講談社 1993年
- ・横田順彌『雲の上から見た明治』 学陽書房 1999年
- ・生駒忠一郎『二宮忠八・伝 世界の飛行機発明の先駆者』 KTC中央出版 2002年
- ・岩本義孝『八幡浜偉人伝』 豊予社 2003年

〈主な収蔵資料〉…(P210, 67)

〈ゆかりのある場所〉…(P288~289, 100~101)

〈関連施設〉…八幡浜市立市民図書館内郷土資料室

〒796-0066 愛媛県八幡浜市本町1 TEL: 0894-22-0917

飛行神社

〒614-8002 京都府八幡市八幡土井44番地 TEL: 075-982-2329